



# 前進と 後退



川崎ゆきお

少し前に進み、これは違うと思い、また戻る。一步進んで二歩下がるでは、後退し続けることになるが、二歩下がったあと一步前進するのだから、ここは下がったとは言えない。三歩進んで二歩下がるなら、全体的には前に進んでいることになるが、二歩後退の時期もある。二歩進んで一步下がるでも似たようなものだが、まとめて進み、まとめて後退したパターンだ。

一步進んで一步下がるでは、現状維持だ。こちらのほうが分かりやすい。三歩進むでは、その三歩の中身が分かりにくい。一步を一日と計算すれば分からないこともない。

ただ、世の中が後退、退潮気味るとき、現状維持の一步進んで一步下がるでは意味が違ってくる。現状維持しているだけでも偉いということになる。他のものが後退している中で、踏みとどまっているためだ。しかし、これは進んでいるとは言えないが。

逆に世の中がどんどん進んでいるときに、現状維持では取り残され、後退しているようにも見える。

歩みは亀のようにのろいが、後退はなく、確実に一步一步進んでいくタイプは悪くないのだが、引かなければ危ないこともある。つまり後退や撤退をしないと、大きなダメージを受け、もう動けなくなることもある。だから、後退できるのは、まだ元気なのかもしれない。後退、つまり一步下がる力もなくなっているより、良いのだろう。

ただ、何を根拠に前進とか後退と言っているのかが問題で、進歩しているように見えても、実は退化して行っている可能性もある。世の中全体がそうだと、それに気付かなかったりする。

便利になることと引き替えに失うこともある。これを退化とは言わない、便利になったことを優先するためだろう。

「昔はねえ、バスに乗ると車掌のお姉さんがいたんだよ。運転手とは別にね。あれがなくなってから不便になったよ。バス代はねえ、あのお姉さんに払えば良いんだ。席まで来てくれる」

「ありましたねえ。僕がまだ子供の頃でした」

「道路も良くなり、ガタガタしなくなったし、車も良くなったし、エアコンも付いて快適なんだが、あの女車掌さんがいたときのほうが快適だったねえ」

「自動化の時代ですからねえ」

「これは後退じゃないの」

「さあ、バスは見掛けますが、殆ど乗ってませんねえ」

「そうなの」

「乗る機会がないんです」

「そうだねえ、年寄りは無料なので、私は乗ってますがね」

「観光バスや、電車のないところでは乗ってますよ。高速バスもね。しかし、近所を走っているバスには乗らないです」

「赤字らしいしね」

「それでも走っているんだから、偉いですよ」

「廃線になった鉄道も多いねえ」

「現状維持だけでも大変ですよ。市バスの時代じゃもうないのにねえ」

「君はどうしてバスに乗らないの」

「バス代がもったいないからです。それに歩いた方が健康に良いし。運動、何もしてませんから」

「じゃ、今日はどうして乗ってるの」

「足を怪我したもので、自転車のペダルが踏めないのです。それにこの雨だし」

「そっか。やはりいるんだよ。こういう市バスは」

「そうですねえ」

了